

平成29年11月28日
スポーツ庁

運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン作成検討会議について

【会議の趣旨】

運動部活動の運営の適正化に向けて、練習時間や休養日の設定、指導の充実、部活動指導員等の活用等について考慮が望まれる基本的な事項、留意点をまとめた「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を作成する。

【委員】

20名（別紙のとおり）

【ガイドラインの内容（案）】

- 練習時間・休養日の設定等
- 指導の在り方
- 部活動指導員の活用に関する留意事項
- 今後の運動部活動の在り方

【これまでの主な議題】

- 部活動指導員の活用に関する留意事項について〔別添1〕
- 運動部活動の取組事例について〔別添2〕
- 平成29年度「運動部活動等に関する実態調査」について〔別添3〕
- 自治体における運動部活動改革の取組等について
 - ・ 部活動の質を向上させる静岡市の部活動改革（静岡市教育委員会）〔別添4〕
 - ・ 多治見市の部活動とジュニアクラブ活動（多治見市教育委員会）〔別添5〕
 - ・ 総合型クラブと部活動の連携・新しいカタチの部活動（NPO 法人希楽々）〔別添6〕

【今後の予定】

- 12月 運動部活動に関するスポーツ医科学的調査研究に基づく議論
- 1～2月 ガイドラインに関する検討
- 3月 ガイドラインとりまとめ、公表

運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン作成検討会議委員

(五十音順)

- 浅野 あや 神戸市教育委員会スポーツ体育課首席指導主事
- 石塚 大輔 スポーツデータバンク株式会社取締役
- 泉 正文 公益財団法人日本体育協会副会長・専務理事、スポーツ審議会委員
- 川原 貴 一般社団法人日本臨床スポーツ医学会理事長、一般社団法人女性アスリート健康支援委員会代表理事、元国立スポーツ科学センター長
- 菊山 直幸 公益財団法人日本中学校体育連盟専務理事
- 小宮山 悟 元プロ野球選手、野球評論家、公益社団法人日本プロサッカーリーグ理事
- 妹尾 昌俊 教育研究者、学校マネジメントコンサルタント
- 田村 好史 順天堂大学大学院医学研究科スポーツロジックセンター・代謝内分泌内科学准教授、順天堂大学国際教養学部国際教養学科グローバルヘルスサービス領域先任准教授
- 杖崎 洋 一般社団法人日本フィットネス産業協会専務理事
- ◎友添 秀則 早稲田大学スポーツ科学学術院スポーツ科学部教授、日本スポーツ教育学会副会長、公益財団法人日本学校体育研究連合会副会長、スポーツ審議会委員
- 奈良 隆 公益財団法人全国高等学校体育連盟専務理事
- 西岡 宏堂 公益財団法人日本高等学校野球連盟副会長
- 平川 理恵 横浜市立中川西中学校長
- 望月浩一郎 弁護士
- 森 涼 日本私立中学高等学校連合会常任理事、学校法人石川義塾理事長・学校長
- 山口 香 筑波大学体育専門学群准教授、教育再生実行会議有識者
- 山口 隆文 公益財団法人日本サッカー協会技術委員・指導者養成ダイレクター
- 山崎 成夫 千葉県立千葉女子高等学校長、前千葉県教育庁教育振興部体育課長
- 山本 明 公益財団法人日本バスケットボール協会強化育成部技術委員会副委員長・ユース育成部会長
- 渡邊 優子 NPO法人希楽々理事長

◎ 座長 ○ 座長代理



部活動指導員等への研修内容(案)について

部活動指導員の任用にあたっては、学校設置者及び所属することとなる学校において、任用前に研修を実施することが求められる。

また、任用後も、学校設置者及び学校において、定期的にフォローアップのための研修や相談が行われることが適切であると考えられる。

上記を踏まえ、学校設置者及び学校それぞれが実施する研修においては、以下の事項について取り扱われることが適切と考えられる。

1. 学校設置者による研修

- ✓ 部活動指導員制度の概要(身分、職務、勤務形態、報酬・費用弁償、災害補償等)
- ✓ 学校教育及び学習指導要領
- ✓ 部活動の意義及び位置付け
- ✓ 服務(校長の監督を受けること、生徒の人格を傷つける言動や体罰が禁止されていること、保護者等の信頼を損なうような行為の禁止等)
- ✓ 生徒の発達段階に応じた科学的な指導
- ✓ 顧問や部活動を担当する教諭等との情報共有
- ✓ 安全・障害予防に関する知識・技能の指導
- ✓ 学校外での活動(大会・練習試合等)の引率
- ✓ 生徒指導に係る対応
- ✓ 事故が発生した場合の現場対応
- ✓ 女子生徒や障害のある生徒などへの配慮
- ✓ 保護者等への対応
- ✓ 部活動の管理運営(会計管理等)

2. 学校による研修

- ✓ 学校、各部の活動の目標や方針(各部の練習時間や休養日の徹底も含む)
- ✓ 学校、各部が抱える課題
- ✓ 学校、各部における用具・施設の点検・管理

【中学校の部活動の取組に関する事例発表】

効率的・効果的な部活動の取組

2017年9月21日(木)

北海道伊達市立伊達中学校 菅田浩之

【中学生の平日1日の生活】

8:15	登校
8:40~15:15	6時間授業
15:15~16:30	清掃活動・委員会係活動
16:30~18:15	部活動
18:30	下校

※この後、学習塾や習い事に通う生徒も多い

<中学生は多忙>

- ・生活リズムの乱れ
- ・睡眠不足
- ・怪我の多発
- ・学習時間の不足
- ・私的時間の喪失

【部活動に関する伊達中学校のルール】

- ◆各部活動は**複数顧問体制**で対応
- ◆学校行事(旅行的行事、学校祭、運動会、市教育研究会、参観日、互助会レクなど)は**部活動停止**
- ◆定期テスト5日前は**部活動停止**
- ◆職員会議、校務部会、学年部会、校内研修などの会議中は**部活動待機(ミーティング・課題学習)**
- ◆成績処理、点検業務などは**部活動停止**

【効率的・効果的な部活動に向けて】

中学生の日常や学校体制の現状を考えると…

- 多くの練習量を確保することはできない
- 負担をかけ過ぎると、怪我や障害の原因になる
- 学習時間や私的時間の確保が難しい

⇒練習時間や内容、休養日などの改善の必要性

① 選手の意識改革

② 部活動ルーティンの確立と『量より質』の追求

【伊達中学校サッカー部での取組】

①選手の意識改革 ～日常の生活を変える～

- ・規則正しい生活、リズムの徹底
- ・学校生活の在り方(ルールを守る)
- ・時間を大切にす意識
- ・学校生活から部活動への切替
- ・トレーニング中の集中力の向上
- ・食事、睡眠、道具などの自己管理の徹底
- ・サッカーを通して自立を促す
- ・心を育てる(最後まで諦めず努力する、謙虚な姿勢、感謝の気持ちなど)
- ・定期的なミーティング、個人面談の実施(心構えの確認)
- ・サッカー原理原則のレクチャー実施
- ・キャプテン、副キャプテンと昼休みの練習内容確認
- ・目標の明確化と見通しを持った生活スタイルの育成

【伊達中学校サッカー部での取組】

②部活動ルーティンの確立と『量より質』の追求

～選手の自立を促す指導～

■平日の練習(A・Bグループ分かれてトレーニング)

⇒ 16:00～18:00 **2時間程度**

①W-UP:**20分**(ブラジル体操、ムーブメントプレパレーション)

②基本練習:**30分**(2人1組、パス&コントロールのデイリーワーク、ボール回し)

③シュート・クロスドリル:**20分**(6パターン×3分間) ※**反復回数を多く**

④ゴール前の攻防:**25分**(1対1、2対2…4対4)

⑤ミニゲーム:**25分**

※常に思考を停止させない働きかけを心掛ける



【まとめ】

ただ、ダラダラと取り組ませても、効果的ではない！

日常を変える！



短い時間で集中して取り組むことが効果的！
休養日を積極的に設けて有効活用！（生徒も教師も）



時間を有効に、部活動は『量より質』の追求を！

『緻密』に 『計画的』に

積み上げいくことが大切！

平成29年度「運動部活動等に関する実態調査」集計状況

1 調査の目的

生徒の健全な成長の促進や教員の業務負担軽減の観点から、運動部活動の運営の適正化に向けて検討を行うため、運動部活動等の活動実態や教員、生徒、保護者等の意識を把握する。

2 調査期間

平成29年7月3日（月）～20日（木）

3 調査対象校

スポーツ庁が算出した以下の調査対象校数について、各都道府県において無作為抽出。

公立中学校……1県（都道府）当たり9校（小規模校4、中規模校4、大規模校1）

公立高等学校…1県（都道府）当たり6校（普通高校5、専門高校1）

私立学校…中学校・高等学校それぞれ、公立・私立の設置割合及び都道府県別の設置割合に基づき各県の調査対象校数を算出。

4 回収状況

校種	区分 ※1		調査対象校			回答者数				
			対象校数	回答校数	回収率(%)	学校(校長)	教員	生徒 40名程度 ×3学年	保護者	部活動 指導員 ※2
中学校	公立	小規模校	188	187	99.5	186	2,778	14,913	13,793	514
		中規模校	188	186	98.9	185	4,679	17,270	16,280	777
		大規模校	46	43	93.5	43	1,488	4,224	3,914	233
		計	422	416	98.6	414	8,945	36,407	33,987	1,524
	私立	34	32	94.1	32	727	3,117	3,073	95	
	小計	456	448	98.2	446	9,672	39,524	37,060	1,619	
高等学校	公立	普通高校	235	232	98.7	227	9,786	24,802	22,617	1,172
		専門高校	47	47	100.0	47	2,446	5,249	4,697	327
		小計	282	279	98.9	274	12,232	30,051	27,314	1,499
	私立	107	97	90.7	96	4,952	10,132	9,146	663	
	小計	389	376	96.7	370	17,184	40,183	36,460	2,162	
合計		845	824	97.5	816	26,856	79,707	73,520	3,781	

※1 小規模校は、11学級以下、中規模校は、12～18学級、大規模校は、19学級以上(1県該当なし)とした。

普通高校は、専門高校以外の高等学校、専門高校は、専門教育を主とする学科のみを有する高等学校とした。

※2 部活動指導者は、学校教育法施行規則に定める部活動指導員及び外部指導者とした。

5 調査項目の概要

<校長対象>

- 部活動を行う部の設置・所属方針について
- 部活動顧問の配置方針について
- 部活動に関する学校のきまりについて
- 地域、種目別団体との連携について
- 部活動指導員及びその他の部活動指導者について 等

<教員対象>

- 部活動顧問の実績について
- 運動部における指導について
- 地域、種目別団体との連携について
- 部活動指導員及びその他の部活動指導者について
- 部活動の運営の在り方について 等

<部活動指導者対象>

- 競技経験、指導実績等について
- 部活動における指導について
- 部活動の運営の在り方について
- 学校教育や部活動への理解について 等

<生徒対象>

- 部活動への所属について
- 部活動の活動日数・時間について
- 部活動の休養日について
- 健康状態、生活との関わりについて
- 運動・スポーツを行う条件について 等

<保護者対象>

- 生徒の部活動への所属について
- 生徒の部活動の参加状況について
- 部活動の運営の在り方について 等

平成29年度「運動部活動等に関する実態調査」 集計結果（速報値）のポイント

1. 中学生の部活動への所属について

(1) 中学校の校長が、生徒の部活動への所属方針について、

- 「部活動を行う部への所属は生徒の希望である」と答えた割合は、公立は6割強、私立は8割弱
- 「生徒全員が部活動を行う部に所属し、活動も原則参加させている」と答えた割合は、公立は3割、私立は1割強

H29	全体 n 414	公立中学校		私立 中学校 n 32
		人口 集中地区 n 180	非人口 集中地区 n 223	
1.生徒の希望	66.7	80.6	54.7	78.1
2.全員が所属し、活動も原則参加	30.4	17.2	41.7	15.6
3.全員が所属するが、活動への参加は生徒の意思	1.9	1.1	2.7	3.1
4.全員が運動部と文化部に1つずつ所属し、活動も原則参加	0.2	0.0	0.4	3.1
5.全員が運動部と文化部に1つずつ所属するが活動参加は生徒の意思	0.0	0.0	0.0	0.0
6.その他	0.7	1.1	0.4	0.0

※ 人口集中地区は、総務省統計局が定める人口集中地区（市区町村内で人口密度が4,000人/km²以上の国勢調査基本単位区が互いに隣接して人口が5,000人以上となる地区）による。

また、非人口集中地区は、人口集中地区及び総務省統計局が定める準人口集中地区以外の地区とした。

(2) 中学校運動部の主担当顧問教員が、生徒の部活動への所属に関する考えの近いものについて、「部活動は教育の一環であり、生徒全員が部活動に所属すべき」と答えた割合は、公立、私立とも1割強

H29	全体 n 4,138	公立中学校		私立 中学校 n 283
		人口 集中地区 n 2,151	非人口 集中地区 n 1,867	
1.希望する生徒が部活動に所属すべき	72.9	78.4	67.2	73.1
2.教育の一環であり、生徒全員が部活動に所属すべき	15.4	11.9	18.9	16.3
3.どちらともいえない	11.6	9.6	13.8	10.6

(3) 中学校運動部生徒の保護者が、部活動が生徒の自主的、自発的な参加により行われるものであることについて、「知らなかった」と答えた割合は、公立は約2割、私立は約1割

H29	全体 n 24,982	公立中学校		私立 中学校 n 1,969
		人口 集中地区 n 11,066	非人口 集中地区 n 13,198	
1.知っている	78.1	83.6	73.4	88.6
2.知らなかった	21.6	16.1	26.2	11.0

2. 部活動の在り方について

(1) 運動部の主担当顧問教員が、部活動の在り方に関する考えの近いものについて、

- 「生徒のニーズに合わせた多様な部活動があるべき」と答えた割合は、
 - ・ 公立学校では、中学校が約3割強、高等学校が4割強
 - ・ 私立学校では、中学校・高等学校ともに約5割
- 「地域でも担える部活動は将来的に地域でも担うようにするべき」と答えた割合は、
 - ・ 公立学校では、中学校が約3割、高等学校が2割強
 - ・ 私立学校では、中学校が約2割、高等学校が1割強

	中学校		高等学校	
	公立 n 4,138	私立 n 283	公立 n 4,370	私立 n 1,513
1.技術力の向上を重視し、大会・コンクールでの好成績を目指すべき	13.5	15.9	17.8	21.4
2.生涯スポーツのための運動習慣の形成に向けて、楽しく活動すべき	18.7	15.2	12.7	13.3
3.生徒のニーズに合わせた多様な部活動があるべき	34.9	49.1	45.8	49.3
4.地域でも担える部活動は、将来的に地域でも担うようにするべき	32.5	19.8	23.4	15.5

(2) 中学校運動部生徒の保護者が、顧問教員が実技指導を十分に行えない場合の対処方針に関する考えの最も近いものについて、

- 「実技指導者を配置する」と答えた割合は7割程度
- 「顧問教員が実技指導をできなくても部活動は継続する」と答えた割合は2割程度
- 「実技指導者がいる地域の活動場所を勧める」と答えた割合は1割未満

	中学校		高等学校	
	公立 n 24,982	私立 n 1,969	公立 n 15,832	私立 n 4,464
1.教員とは別に実技指導が行える指導者を配置する	70.6	73.6	70.4	77.5
2.学校の部活動は行わず、実技指導者がいる地域の活動場所を勧める	3.3	4.0	2.2	2.7
3.顧問教員が実技指導をできなくても、部活動は継続する	21.6	18.2	22.9	15.5
4.その他	4.0	3.8	4.1	4.0

(3) 運動部生徒の保護者が、持続可能な部活動に向けた在り方に関する考えの最も近いものについて、

- 「できる範囲で今まで通り学校・教員が担う」と答えた割合は3～4割程度
- 「多少のお金がかかっても実技指導者を配置する」と答えた割合は3～4割程度
- 「保護者がもっと部活動に協力する」と答えた割合は1割未満
- 「将来的に学校から地域の活動へ移行させる」と答えた割合は1割未満

	中学校		高等学校	
	公立 n 24,982	私立 n 1,969	公立 n 15,832	私立 n 4,464
1.多少のお金がかかっても実技指導者を配置する	32.9	46.0	34.5	46.5
2.保護者がもっと部活動に協力する	4.4	1.7	3.9	3.1
3.将来的に学校から地域の活動へ移行させる	7.0	4.6	5.0	4.3
4.できる範囲で今までどおり学校・教員が担う	43.0	35.6	42.9	34.6
5.部活動はなくて良い	1.8	1.0	1.0	0.5
6.特段の意見はない・わからない	10.2	10.5	12.0	10.5

3. 部活動顧問の配置について

(1) 校長が、**部活動顧問教員の配置方針**について、「**全教員が顧問に当たることを原則とし、複数名の顧問を配置している**」と答えた割合は、**公立学校が6割程度、私立学校が3～4割程度**

H29	中学校		高等学校	
	公立 n 414	私立 n 32	公立 n 274	私立 n 96
1.全教員が顧問に当たり、一つの部に複数名の顧問を配置	64.0	40.6	68.6	34.4
2.全教員が顧問に当たり、人数は部員数等に応じて配置	27.1	46.9	28.5	44.8
3.全教員が複数の顧問に当たる	2.7	0.0	1.1	0.0
4.運動部のみ複数名の顧問を配置	2.9	3.1	0.4	2.1
5.希望する教員が顧問に当たる	2.2	3.1	0.4	4.2
6.その他	1.2	6.3	0.7	14.6

(2) 教員が、**主担当顧問である部活動**について、「**運動部の顧問を担当している(1.+3.)**」と答えた割合は、

- 中学校では公立が約7割、私立が6割弱**
- 高等学校では公立が7割弱、私立が5割弱**

H29	中学校		高等学校	
	公立 n 8,945	私立 n 727	公立 n 12,232	私立 n 4,952
1.運動部の顧問を担当している	68.3	48.7	49.9	41.3
2.文化部の顧問を担当している	15.3	26.8	22.7	26.0
3.運動部と文化部の顧問を担当している	2.8	9.8	17.7	5.7
4.顧問を担当していない	13.5	14.7	9.7	26.9

(3) 運動部の主担当顧問教員が、**部活動顧問教員の配置に関する最も近い考え**について、「**希望する教員のみを当たらせるべき**」と答えた割合は、

- 中学校では、公立・私立ともに4割程度**
- 高等学校では、公立・私立ともに3割強**

H29	中学校		高等学校	
	公立 n 4,138	私立 n 283	公立 n 4,370	私立 n 1,513
1.全教員を当たらせるべき	33.3	34.6	40.7	36.9
2.希望する教員のみを当たらせるべき	38.4	41.0	34.8	34.5
3.どちらともいえない	28.0	24.4	24.3	28.4

4. 学期中における運動部活動に関する学校のきまりについて

- (1) 校長が、学期中における平日の部活動の活動時間に関する学校のきまりの有無について、
「きまりがある(1.~4.)」と答えた割合は、
 中学校では、公立が約9割、私立が8割強
 高等学校では、公立が7割強、私立が6割

H29

	中学校		高等学校	
	公立 n 414	私立 n 32	公立 n 274	私立 n 96
<きまりがある>1.1日につき、1時間以内	0.5	0.0	0.0	1.0
2.1日につき、2時間以内	19.1	15.6	2.9	4.2
3.1日につき、3時間以内	16.9	9.4	15.3	5.2
4.学校としてきまりは設けている(その他)	56.3	59.4	55.1	50.0
<きまりがない>5.各都ごとに設けさせたものを学校長が承認している	2.4	0.0	5.5	8.3
6.各部の顧問に任せている	3.9	12.5	20.1	27.1
7.学校のきまりは設けていない(その他)	0.2	0.0	0.7	3.1

- (2) 校長が、学期中における休日の部活動の活動時間に関する学校のきまりの有無について、
 「きまりがある(1.~4.)」と答えた割合は、
 ・ 中学校では、公立が5割強、私立が5割弱
 ・ 高等学校では、公立が3割強、私立が4割弱
 「学校のきまりとして特段の定めは設けておらず、各部の顧問に任せている」と答えた割合は、
 ・ 中学校では、公立が3割弱、私立が4割程度
 ・ 高等学校では、公立・私立ともに4割程度

H29

	中学校		高等学校	
	公立 n 414	私立 n 32	公立 n 274	私立 n 96
<きまりがある>1.1日につき、2時間以内	0.7	0.0	0.0	0.0
2.1日につき、3時間以内	3.1	3.1	0.7	0.0
3.1日につき、午前又は午後のいずれか又は4時間以内	26.1	9.4	9.9	7.3
4.学校としてきまりを設けている(その他)	22.7	34.4	25.2	31.3
<きまりがない>5.各都ごとに設けさせたものを学校長が承認している	15.7	12.5	15.0	16.7
6.各部の顧問に任せている	27.3	40.6	45.6	39.6
7.学校としてきまりを設けていない	3.9	0.0	3.3	4.2

- (3) 校長が、対外試合（公式戦を除く）の実施日数に関するきまりについて、
- 「学校としてきまりがある（1.+2.）」と答えた割合は1割程度
 - 「学校のきまりとして特段の定めは設けておらず、各部の顧問に任せている」と答えた割合は、
 - ・ 中学校では、公立が4割弱、私立が約6割
 - ・ 高等学校では、公立・私立ともに5割程度

H29	中学校		高等学校	
	公立 n 414	私立 n 32	公立 n 274	私立 n 96
<きまりがある>1.年間の実施日数の上限を定めている	0.7	3.1	1.5	2.1
2.学校としてきまりを設けている(その他)	3.9	9.4	6.2	10.4
<きまりがない>3.年間の実施日数の上限は定めていないが、土曜日又は日曜日に対外試合を行う場合は、いずれか1日のみとしている(両日は行わない)	11.1	0.0	0.7	0.0
4.年間の実施日数の上限は定めていないが、学校長が各部の年間・月間活動計画を確認し、承認している	39.9	21.9	27.7	29.2
5.各部の顧問に任せている	37.0	62.5	54.4	51.0
6.学校としてきまりを設けていない	7.5	3.1	8.8	6.3

5. 中学校における運動部活動の活動日数について

(1) 中学校の運動部生徒が、学期中における平日の活動日数について、

- 「5日(毎日)」と答えた割合は、公立が約5割、私立が約2割
- 「4日」と答えた割合は、公立・私立ともに約4割

H29	中学校		高等学校	
	公立 n 26,649	私立 n 2,016	公立 n 16,998	私立 n 4,902
1.0日	0.9	1.6	1.1	1.4
2.1日	0.7	1.7	0.7	2.3
3.2日	1.2	19.6	1.0	4.7
4.3日	4.1	18.9	3.3	13.1
5.4日	41.2	39.0	30.6	32.3
6.5日	52.0	19.1	63.3	46.2

(2) 中学校の運動部生徒が、学期中における1ヶ月間での休日(土・日)の活動頻度について、

- 「土曜日は原則毎週」と答えた割合は公立・私立とも6割強
- 「日曜日は原則毎週」と答えた割合は公立・私立ともに3割程度

H29	中学校				高等学校			
	公立 n 26,649		私立 n 2,016		公立 n 16,998		私立 n 4,902	
	土曜日	日曜日	土曜日	日曜日	土曜日	日曜日	土曜日	日曜日
1.原則活動していない	4.1	28.3	17.7	45.9	5.1	27.8	9.9	27.5
2.毎月1週程度	3.0	7.2	2.3	4.1	1.7	4.2	2.8	4.0
3.毎月2週程度	6.3	9.8	6.4	5.2	3.0	5.2	3.0	4.0
4.毎月3週程度	16.3	15.1	7.6	8.1	7.0	7.8	5.8	6.2
5.原則毎週活動	68.7	32.4	64.2	30.8	81.9	49.7	76.6	53.7

(3) 中学校の運動部生徒が、対外試合(公式戦を除く)の年間実施日数について、

- 「10日以内(1.~3.)」と答えた割合は、公立が約5割、私立が約6割
- 「30日以上」と答えた割合は、公立が1割強、私立が約1割

H29	中学校		高等学校	
	公立 n 17,657	私立 n 1,303	公立 n 10,549	私立 n 3,083
1.原則活動していない・活動しない	12.4	27.9	13.8	16.6
2.5日以内	19.2	22.6	18.7	16.4
3.5~10日程度	17.5	12.4	15.8	13.3
4.10~15日程度	11.5	7.4	11.2	10.2
5.15~20日程度	8.9	5.8	7.7	7.7
6.20~25日程度	6.7	4.7	5.6	4.7
7.25~30日程度	4.9	3.5	4.0	4.2
8.30日以上	14.9	11.4	15.5	20.2

6. 中学校における運動部活動の1日当たりの活動時間について

(1) 中学校の運動部生徒が、学期中における平日1日当たりの活動時間について、

○公立では「2～3時間程度」と答えた割合が5割弱

○私立では「1～2時間程度」と答えた割合が約4割

H29	中学校		高等学校	
	公立 n 26,462	私立 n 2,003	公立 n 16,863	私立 n 4,861
1.0～1時間程度	1.7	2.6	1.4	1.4
2.1～2時間程度	25.6	41.5	20.8	21.7
3.2～3時間程度	46.3	35.6	47.0	34.5
4.3～4時間程度	21.6	15.1	21.1	25.6
5.4～5時間程度	3.9	3.8	7.3	12.2
6.5時間以上	1.0	1.4	2.4	4.6

○また、朝の活動について、「原則活動していない」と答えた割合は、公立が約6割、私立が約8割

H29	中学校						高等学校					
	公立 n 26,649			私立 n 2,016			公立 n 16,998			私立 n 4,902		
	朝	昼休み	放課後	朝	昼休み	放課後	朝	昼休み	放課後	朝	昼休み	放課後
1.原則活動していない	62.8	96.5	1.7	82.3	95.5	2.2	78.8	96.5	1.2	70.6	92.7	1.6
2.15分以内	2.3	1.0	0.2	1.4	1.5	0.3	1.1	1.0	0.2	1.4	2.7	0.2
3.30分以内	22.4	0.8	0.7	6.5	1.3	0.6	8.7	1.1	0.4	9.7	2.7	0.5
4.1時間程度	10.5	0.2	3.1	7.8	0.2	6.9	9.1	0.1	1.3	14.6	0.4	2.2
5.1～2時間程度	0.6	0.2	34.5	0.9	0.2	39.8	0.9	0.1	21.7	2.1	0.2	22.9
6.2～3時間程度	0.4	0.4	50.4	0.2	0.5	37.4	0.3	0.2	53.4	0.5	0.2	42.1
7.3～4時間程度	0.1	0.1	8.1	0.0	0.1	9.7	0.2	0.1	18.1	0.2	0.1	23.2
8.4時間以上	0.1	0.1	0.6	0.1	0.0	2.3	0.1	0.1	2.9	0.1	0.1	6.5

(2) 中学校の運動部担当顧問教員が、学期中における平日1日当たりの指導時間について、

○「1～2時間程度」と答えた割合は、公立が3割強、私立が4割強

○「2～3時間程度」と答えた割合は、公立が約4割、私立が3割弱。

H29	中学校		高等学校	
	公立 n 4,052	私立 n 273	公立 n 4,284	私立 n 1,485
1.0～1時間程度	6.5	10.6	12.7	11.0
2.1～2時間程度	35.9	44.0	29.9	27.2
3.2～3時間程度	39.6	27.5	33.3	26.8
4.3～4時間程度	14.6	13.9	15.6	19.7
5.4～5時間程度	1.9	1.5	5.6	8.4
6.5時間以上	1.5	2.6	3.0	6.9

○「下校時刻以降に指導している(2.～8.)」と答えた割合は1割弱。

H29	中学校								高等学校							
	公立 n 4,138				私立 n 283				公立 n 4,370				私立 n 1,513			
	朝	昼休み	放課後	下校時刻後	朝	昼休み	放課後	下校時刻後	朝	昼休み	放課後	下校時刻後	朝	昼休み	放課後	下校時刻後
1.原則関わっていない	63.3	95.7	5.5	89.0	77.0	90.8	6.4	88.0	83.7	93.6	10.8	75.4	80.5	89.8	12.8	74.6
2.15分以内	5.3	1.3	1.1	0.4	4.2	3.5	1.1	1.1	2.6	3.2	2.3	1.1	3.8	5.9	1.5	1.3
3.30分以内	21.3	0.3	3.7	0.8	6.4	1.8	4.2	1.4	5.7	0.3	5.3	2.2	5.6	1.4	4.4	2.4
4.1時間程度	7.2	0.0	10.3	1.5	7.1	0.0	12.7	2.8	4.8	0.1	14.0	5.1	6.5	0.1	8.5	3.9
5.1～2時間程度	0.1	0.0	40.5	3.0	1.1	0.0	37.5	0.7	0.4	0.0	25.1	7.1	0.7	0.1	25.0	5.4
6.2～3時間程度	0.2	0.1	34.0	2.4	0.0	0.0	29.0	1.8	0.1	0.1	31.9	4.8	0.4	0.3	29.5	5.4
7.3～4時間程度	0.0	0.0	2.7	0.3	0.0	0.0	4.9	0.4	0.0	0.0	7.8	1.5	0.1	0.1	13.4	3.1
8.4時間以上	0.4	0.6	0.1	0.6	0.7	0.4	0.7	0.4	0.6	0.7	0.9	0.8	0.6	0.6	3.1	2.1

(3) 中学校の運動部生徒が、学期中における休日（土・日）1日当たりの活動時間について、

○「3～4時間程度」と答えた割合は、

- ・土曜日では、公立が3割強、私立が約2割
- ・日曜日では、公立が約2割、私立中学校が1割

○「日曜日は原則活動していない」と答えた割合は、公立が約3割、私立が4割強

H29	中学校				高等学校			
	公立 n 26,649		私立 n 2,016		公立 n 16,998		私立 n 4,902	
	土曜日	日曜日	土曜日	日曜日	土曜日	日曜日	土曜日	日曜日
1.原則活動していない	3.9	29.1	17.9	46.7	5.2	28.4	9.9	27.8
2.1時間以内程度	0.6	0.7	1.1	0.6	0.5	0.5	0.9	0.6
3.1～2時間程度	3.6	2.1	6.7	2.1	3.0	1.9	4.5	2.4
4.2～3時間程度	23.4	13.4	21.6	7.2	21.6	11.8	19.8	11.1
5.3～4時間程度	36.0	23.0	21.8	10.3	31.4	21.2	22.3	14.9
6.4～5時間程度	16.7	12.8	13.5	8.4	13.1	10.6	10.8	8.5
7.5～6時間程度	4.4	3.8	5.2	4.4	5.2	4.6	6.0	5.7
8.6～7時間程度	1.9	1.9	1.9	3.2	4.2	3.7	4.9	5.2
9.7時間以上	4.0	3.7	3.9	8.2	7.3	7.2	12.9	14.6

(4) 中学校の運動部生徒の保護者が、学期中における休日の好ましい活動時間について、「原則活動しない」と答えた割合は、

○土曜日では、公立が1割未満、私立が約1割

○日曜日では、公立が約3割、私立が5割弱

H29	中学校				高等学校			
	公立 n 24,982		私立 n 1,969		公立 n 15,832		私立 n 4,464	
	土曜日	日曜日	土曜日	日曜日	土曜日	日曜日	土曜日	日曜日
1.原則活動しない	4.6	32.9	12.9	46.8	4.6	30.3	7.5	30.4
2.2時間以内程度	5.8	3.4	10.6	3.2	4.9	2.8	6.3	2.1
3.2～3時間程度	30.6	16.6	29.4	10.5	27.0	14.6	23.6	12.1
4.3～4時間程度	36.7	23.0	24.6	11.9	34.8	22.7	27.3	18.2
5.4～5時間程度	11.7	8.6	9.7	7.6	12.0	9.1	11.6	9.1
6.5～6時間程度	3.6	2.9	4.0	4.4	5.4	4.4	6.9	6.8
7.6～7時間程度	2.1	1.7	3.1	4.8	3.8	3.3	6.9	7.3
8.7時間以上	0.9	0.7	1.7	2.4	2.0	1.8	4.2	4.4

7. 運動部生徒の健康について

(1) 公立中学校の運動部生徒が、最近1ヶ月以内のケガや病気について、「ケガをした・している」と答えた割合は、

○平日1日当たりの活動時間が3時間未満の場合が3割程度

○平日1日当たりの活動時間が3時間以上の場合が4割程度

	公立中学校(平日1日の活動時間)					
	0~1時間 程度 n 456	1~2時間 程度 n 6,762	2~3時間 程度 n 12,249	3~4時間 程度 n 5,718	4~5時間 程度 n 1,023	5時間 以上 n 254
H29 1.1ヶ月以内にケガ・病気をしていない	55.3	62.9	61.1	56.8	53.2	51.2
2.1ヶ月以内に病気になった	8.3	7.3	7.6	7.6	7.3	8.7
3.1ヶ月以内にケガをした・ケガをしている	34.2	30.7	32.2	36.9	41.3	39.4

	公立高等学校(平日1日の活動時間)					
	0~1時間 程度 n 241	1~2時間 程度 n 3,500	2~3時間 程度 n 7,919	3~4時間 程度 n 3,554	4~5時間 程度 n 1,239	5時間 以上 n 410
H29 1.1ヶ月以内にケガ・病気をしていない	66.0	70.7	67.1	62.4	58.4	56.8
2.1ヶ月以内に病気になった	9.1	6.8	6.6	6.6	7.3	5.1
3.1ヶ月以内にケガをした・ケガをしている	23.7	21.6	26.2	31.4	34.8	37.1

(2) 運動部生徒が、部活動に関する悩み(複数回答)について、「体がだるい」、「眠くて授業に集中できない」と答えた割合はいずれも1割程度

	中学校		高等学校	
	公立 n 26,649	私立 n 2,016	公立 n 16,998	私立 n 4,902
H29 ※生徒の悩みの「健康・ケガ」に関する項目を抜粋				
6.ケガで活動ができない・なかなか治らない	3.6	3.0	4.4	4.9
8.眠くて授業に集中できない	12.3	9.4	12.8	12.3
10.体がだるい	16.0	11.2	13.6	13.1

8. 生徒の運動部への所属に対する考えについて

(1) 運動部に所属していない公立学校の生徒が、運動部に所属しない理由について、

○「文化部やその他の活動(趣味等)を優先したい」、「運動・スポーツは苦手ですりたくない」と答えた割合は、いずれも中学校・高等学校ともに2割程度

○また、これらは、男子が1割未満、女子は1～2割

H29	中学校(公立)			高等学校(公立)		
	全体 n 9,758	男子 n 3,138	女子 n 6,620	全体 n 13,053	男子 n 4,511	女子 n 8,542
1.勉強したい	3.5	1.3	2.2	6.6	3.1	3.4
2.文化部やその他の活動(趣味等)を優先したい	23.3	3.9	19.3	23.3	7.1	16.2
3.運動部は活動が厳しい	3.5	1.1	2.4	5.1	2.0	3.1
4.運動部は活動時間・日数が長い	2.7	1.1	1.7	7.9	2.5	5.5
5.ケガをしたくない	0.6	0.2	0.4	0.8	0.4	0.3
6.やりたい運動部がない	10.8	2.9	7.9	11.8	4.3	7.5
7.学校以外のスポーツクラブに所属している	15.5	11.3	4.2	2.4	1.1	1.3
8.運動・スポーツは苦手ですりたくない	19.7	4.3	15.4	16.5	4.1	12.3
9.その他	12.0	3.8	8.2	17.6	7.7	9.9

(2) 学校の運動部や地域のスポーツクラブに所属していない公立学校の生徒が、「運動・スポーツを行う条件(複数回答)について、

○「友達と楽しめる」と答えた割合は、中学校・高等学校ともに4割強

○「活動時間が程良い」と答えた割合は、中学校・高等学校ともに約3割

○「指導がやさしく丁寧」、「同じレベルの人だけでできる」と答えた割合は、いずれも1～2割程度

○また、これらは、中学校では男子が1割未満、女子が1～3割程度

H29	中学校(公立)			高等学校(公立)		
	全体 n 8,250	男子 n 2,038	女子 n 6,212	全体 n 12,744	男子 n 4,369	女子 n 8,375
1.同じ競技レベルの人だけで活動できる	21.2	4.0	17.2	14.6	4.9	9.7
2.勝ち負けにこだわらない	23.3	5.6	17.7	17.5	6.5	11.0
3.生徒同士で活動計画を決められる	10.2	1.9	8.2	7.6	3.1	4.5
4.活動時間が程良い	31.7	7.1	24.5	31.1	10.3	20.8
5.指導がやさしく丁寧	26.6	5.5	21.1	16.9	4.8	12.1
6.友達と楽しめる	46.8	9.8	37.0	44.6	14.1	30.5
7.どのような条件でも運動・スポーツは行いたくない	16.5	4.5	12.0	13.0	4.9	8.1

(3) 学校以外のスポーツクラブに所属している公立中学校の生徒が、学校の運動部活動を選ばなかった理由(複数回答)について、

○「部活動より競技レベルが高い」、「部活動より専門的な指導が受けられる」と答えた割合はいずれも4割強

○「部活動に行きたい競技種目がない」と答えた割合は3割弱

H29	中学校(公立)			高等学校(公立)		
	全体 n 1,508	男子 n 1,100	女子 n 408	全体 n 309	男子 n 142	女子 n 167
1.部活動には行きたい競技種目がない	28.3	18.0	10.3	28.2	13.3	14.9
2.部活動より競技レベルが高い	48.7	42.8	5.9	24.3	11.7	12.6
3.部活動より専門的な指導が受けられる	43.0	36.4	6.6	23.0	11.3	11.6
4.他の学校の友達と一緒にできる	25.3	18.3	7.0	12.3	6.5	5.8
5.趣味などの他の活動と両立させられる	9.7	4.6	5.1	25.9	11.7	14.2
6.その他	23.9	15.7	8.2	25.2	13.0	12.3

9. 運動部生徒及びその保護者の運動部活動に関する目的・意識等について

(1) 公立学校の運動部生徒が、運動部に所属する最大の目的について、

- 「大会等で良い成績を収める」と答えた割合は、中学校・高等学校ともに約3割
- 「体力・技術を向上させる」と答えた割合は、中学校・高等学校ともに2割強
- 「チームワーク・協調性・共感」と答えた割合は、中学校・高等学校ともに2割程度

H29	中学校		高等学校	
	公立 n 26,649	私立 n 2,016	公立 n 16,998	私立 n 4,902
1.大会・コンクール等で良い成績を収める	30.6	25.5	31.3	39.8
2.チームワーク・協調性・共感を味わう	18.7	14.3	20.3	17.4
3.体力・技術を向上させる	26.1	28.6	23.3	19.8
4.友達と楽しく活動する	10.0	16.7	12.0	9.4
5.部活動以外に取り組めるものがない	0.6	0.6	0.7	0.6
6.学校以外に活動場所・施設がない	0.1	0.4	0.1	0.2
7.その他の目的	4.5	4.5	4.3	5.1
8.特になし	6.7	6.7	5.4	4.9

(2) 公立学校の運動部生徒の保護者が、部活動に最も期待すること（複数回答）について、

- 「チームワーク・協調性・共感を味わう」と答えた割合は、中学校・高等学校ともに7割強
- 「社会性（挨拶・礼儀等）を身につける」と答えた割合は、中学校・高等学校ともに6割弱
- 「大会等で良い成績を収める」と答えた割合は、中学校・高等学校ともに2割弱

H29	中学校		高等学校	
	公立 n 24,982	私立 n 1,969	公立 n 15,832	私立 n 4,464
1.大会・コンクール等で良い成績を収める	17.7	16.7	18.6	23.4
2.チームワーク・協調性・共感を味わう	77.6	76.2	76.6	76.7
3.体力・技術の向上	49.4	50.9	42.0	42.3
4.運動習慣の形成	11.1	17.1	9.0	9.3
5.友達と楽しく活動する	29.4	33.7	33.9	27.3
6.自信をつける	19.6	14.9	16.5	17.1
7.社会性(挨拶・礼儀等)を身につける	58.3	54.8	57.5	59.2
8.放課後の居場所	2.7	3.0	2.3	2.7
9.その他	0.4	0.2	0.6	0.6
10.特になし	0.8	0.4	1.1	0.9

(3) 中学校の運動部生徒が、平日の活動時間が短縮された場合の過ごし方（複数回答）について、

- 「友達と遊ぶ、テレビ・ゲーム・趣味がしたい（3. +5.）」と答えた割合は、公立・私立ともに4割程度。
- 「家で勉強、塾・習い事がしたい（1. +2.）」と答えた割合は、公立・私立ともに2割程度
- 「眠りたい」と答えた割合は、公立・私立ともに1割強

H29	中学校		高等学校	
	公立 n 26,649	私立 n 2,016	公立 n 16,998	私立 n 4,902
1.家で勉強したい	14.3	21.5	17.7	14.4
2.塾や習い事がしたい	4.9	3.9	3.6	4.2
3.友達と遊びたい	22.6	15.4	21.7	24.6
4.家族と過ごしたい	4.5	4.0	2.2	3.3
5.テレビ・ゲーム・趣味がしたい	22.9	25.5	18.5	14.0
6.部活動とは違うスポーツがしたい	6.3	4.9	4.8	5.2
7.眠りたい	13.7	13.2	23.1	23.4
8.その他	5.7	8.1	4.3	6.7

(4) 公立中学校の運動部生徒が、部活動の顧問や指導者から指導を受けて感じる事（複数回答）について、

- 「指導がわかりやすい」と答えた割合は3割強
- 「もっと専門的な技術指導を受けたい」と答えた割合は1割強
- 「指導が厳しい」、「指導時間が長い」、「指導がわかりにくい」と答えた割合はいずれも1割未満

H29	中学校		高等学校	
	公立 n 26,649	私立 n 2,016	公立 n 16,998	私立 n 4,902
1.指導がわかりやすい	36.4	34.0	29.4	29.0
2.体力・技術が向上している	36.1	32.9	31.3	32.7
3.部活動がもっと好きになった	16.4	16.0	11.4	10.8
4.もっと専門的な技術指導を受けたい	14.4	10.2	15.5	14.9
5.指導が厳しい	8.1	6.9	5.6	7.2
6.指導時間が長い	6.2	5.3	6.1	7.6
7.指導時間が短い	3.9	6.0	4.3	4.0
8.指導がわかりにくい	8.6	6.1	7.0	7.1
9.その他	5.7	6.9	7.7	7.8
10.特に感じない	13.7	16.3	17.4	15.9

(5) 公立中学校の運動部生徒が、部活動の顧問教員以外の技術的な指導ができる人から指導を受けることについて、「既に受けている・是非受けてたい（1. +2.）」と答えた割合は6割弱

H29	中学校		高等学校	
	公立 n 26,649	私立 n 2,016	公立 n 16,998	私立 n 4,902
1.既に受けている	29.3	24.6	25.3	29.8
2.是非受けてたい	28.3	31.2	29.8	31.1
3.どちらでもよい・わからない	32.7	33.0	33.8	29.5
4.受けたくない	8.2	9.9	9.2	7.5

(6) 公立中学校の運動部生徒が、部活動が参加する大会に地域のクラブが参加することに関する考えについて、

- 「どちらでもよい」と答えた割合は4割程度
- 「大会が盛り上がるので賛成」と答えた割合は2割強
- 「学校対抗のままがよい」と答えた割合は1割強

H29	中学校		高等学校	
	公立 n 26,649	私立 n 2,016	公立 n 16,998	私立 n 4,902
1.大会が盛り上がるので賛成	26.2	26.2	24.9	25.3
2.出場機会が増えるので賛成	13.1	13.0	10.7	11.3
3.強いチーム出てくるから反対	4.5	3.7	3.0	3.3
4.学校対抗のままがよい	13.9	11.4	14.4	11.6
5.どちらでもよい	40.6	44.2	45.2	46.4

10. 運動部の主担当顧問教員の運動部活動に関する意識等について

(1) 運動部の主担当顧問教員が、部活動の指導で重視している点（複数回答）について、

- 「チームワーク・協調性・共感」と答えた割合は3割強～5割程度
- 「生徒の自主性・主体性の尊重と育成」と答えた割合は4割程度
- 「生徒一人一人の心身の発育発達段階に応じた指導」、「大会等での良い成績」と答えた割合はいずれも1～2割程度

H29	中学校		高等学校	
	公立 n 4,138	私立 n 283	公立 n 4,370	私立 n 1,513
1.大会・コンクール等での良い成績	13.1	16.3	22.0	27.0
2.生徒一人一人の技能レベルに応じた指導	25.6	21.2	26.4	25.2
3.練習内容の精選と工夫	13.6	12.7	15.5	12.1
4.生徒一人一人の心身の発育発達段階に応じた指導	21.3	16.3	13.8	13.4
5.生徒の自発性・主体性の尊重と育成	39.9	43.1	44.3	39.1
6.多くの生徒が楽しめる指導の工夫	6.6	12.7	5.3	7.1
7.チームワーク・協調性・共感	51.1	35.3	36.2	35.4
8.外傷や障害の予防	3.4	7.4	5.2	5.4
9.実技指導はしていない	4.2	8.1	8.5	7.7
10.その他	1.6	0.4	1.1	1.5

(2) 中学校運動部の主担当顧問教員が、主担当運動部の競技種目に係る指導者資格の有無（複数回答）について、「資格は持っていない・資格制度がない(6.+7.)」と答えた割合は約8割。

H29	中学校		高等学校	
	公立 n 4,138	私立 n 283	公立 n 4,370	私立 n 1,513
1.日本体育協会公認指導員	5.4	7.1	10.8	12.7
2.日本体育協会公認コーチ	3.0	7.4	8.7	9.6
3.日本体育協会公認教師	0.2	0.0	0.1	0.2
4.国内競技団体認定指導員	4.8	3.9	7.0	6.7
5.その他の資格	7.8	8.5	7.9	11.4
6.資格は持っていない	58.1	55.1	49.8	46.5
7.当該競技種目の資格はない	24.4	24.0	21.6	19.7

(3) 運動部の主担当顧問教員が、指導力向上のための研修会や講習会への参加実績（複数回答）について、

- 「競技種目の技術の指導法」、「審判」と答えた割合はいずれも3～4割程度
- 「参加したいが休みがとれない」と答えた割合は2割程度

H29	中学校		高等学校	
	公立 n 4,138	私立 n 283	公立 n 4,370	私立 n 1,513
1.競技種目のトレーニング法	27.8	25.8	35.0	34.0
2.競技種目の技術の指導法	38.4	33.6	43.4	42.2
3.スポーツ生理学	5.0	4.6	8.2	7.7
4.スポーツ栄養学	8.5	9.2	16.3	17.0
5.スポーツ心理学	7.4	7.4	12.9	13.2
6.審判	40.3	31.4	36.8	36.0
7.スポーツマネジメント	4.4	4.9	6.3	7.3
8.スポーツバイオメカニクス	1.5	2.1	3.6	4.1
9.参加したいが休みが取れない	18.6	21.9	16.2	18.1
10.参加したいが参加費が捻出できない	4.4	5.7	5.3	5.9
11.実技指導は行わないので参加しない	10.0	16.3	13.7	11.6
12.その他	15.0	15.2	11.7	13.8

11. 部活動に関する悩みについて

(1) 公立中学校の校長が、部活動に関する悩み（複数回答）について、

- 「顧問教員の負担軽減」と答えた割合は約8割
- 「顧問の不足」と答えた割合は6割弱
- 「入部者の減少」と答えた割合は約4割
- 「顧問の知識・技能不足」と答えた割合は約3割弱
- 「保護者からの要望」と答えた割合は約2割
- 「保護者の理解不足」と答えた割合は約1割

H29	中学校		高等学校	
	公立 n 414	私立 n 32	公立 n 274	私立 n 96
1.入部者の減少	39.9	3.1	36.1	11.5
2.顧問の不足	56.5	59.4	53.6	50.0
3.顧問の知識・技能不足	27.8	21.9	23.7	14.6
4.顧問・部活動指導者の過度な指導	6.5	6.3	3.3	5.2
5.顧問教員の負担軽減	79.5	62.5	79.2	76.0
6.保護者の理解不足	11.4	0.0	2.2	1.0
7.保護者からの要望	20.8	0.0	5.8	6.3
8.活動場所の不足	11.8	46.9	14.2	42.7
9.施設・設備等の老朽化・不備	11.4	12.5	21.2	20.8
10.部員(生徒)の学業との両立	5.8	43.8	31.8	26.0
11.部員(生徒)の健康維持	3.9	0.0	3.3	2.1
12.住民への対応	1.0	6.3	1.1	1.0
13.教育委員会との連携	0.7	0.0	0.4	0.0
14.学校間(小・中・高)の連携	0.7	0.0	1.1	0.0
15.予算不足	10.1	0.0	14.2	24.0
16.悩みがある(その他)	1.2	3.1	1.5	1.0
17.特段の悩みはない	0.5	6.3	0.0	1.0

(2) 運動部の主担当顧問教員が、部活動に関する悩み（複数回答）について、

- 「校務が忙しくて思うように指導できない」、「自身の指導力不足」、「校務との両立に限界を感じる」、「自身の心身の疲労・休息不足」、「自身のワークライフバランス」と回答した割合はいずれも4～5割程度
- 「部員（生徒）のケガ・病気・疲労」と答えた割合は1割程度

H29	中学校		高等学校	
	公立 n 4,138	私立 n 283	公立 n 4,370	私立 n 1,513
1.校務が忙しくて思うように指導できない	54.7	59.7	54.0	47.3
2.部活動以外で生徒に向き合う時間がとれない	12.7	13.4	12.1	12.9
3.校務と部活動の両立に限界を感じる	47.9	45.6	43.6	38.7
4.部員数が多い・少ないため活動が難しい	25.6	33.9	26.3	20.9
5.予算不足	16.0	14.1	21.4	19.8
6.顧問・指導者の不足	27.0	34.3	27.7	28.0
7.自身の指導力の不足	45.1	39.6	36.5	32.6
8.部員の能力不足	9.2	13.8	10.3	11.4
9.部員のケガ・病気・疲労	9.6	12.0	9.9	10.0
10.競技志向の生徒と楽しみ志向の生徒の共存	20.8	24.0	14.9	14.1
11.部員とのコミュニケーション不足	5.8	8.1	5.9	6.1
12.意義を見出せない	5.1	5.3	4.4	3.0
13.部員同士の間関係	18.9	13.4	11.3	11.3
14.保護者の理解不足・過熱	23.5	13.8	8.6	12.2
15.住民の理解不足	2.5	1.8	1.6	2.2
16.部活動指導員との連携不足・人間関係	4.9	3.2	3.9	4.5
17.活動場所の不足	20.5	35.3	19.5	24.9
18.自身のワークライフバランス	45.3	35.3	38.4	28.5
19.自身の心身の疲労・休息不足	51.8	38.9	42.9	36.1
20.自身の経済的負担	13.5	9.9	15.3	15.9
21.その他	4.5	1.8	4.3	4.4
22.特段の課題や悩みはない	3.8	5.7	4.3	6.9

- (3) 運動部生徒が、部活動や学校生活に関する悩み（複数回答）について、
- 「特段の課題や悩みはない」と答えた割合は、中学校では4割程度、高等学校では3割強
 - 「活動時間・日数が長い」と答えた割合は、中学校・高等学校ともに2割程度
 - 「学業との両立」と答えた割合は、中学校では1～2割程度、高等学校では3割弱
 - 「体がだるい」と答えた割合は中学校・高等学校ともに1割強
 - 「眠くて授業に集中できない」と答えた割合は中学校・高等学校ともに1割程度

H29	中学校		高等学校	
	公立 n 26,649	私立 n 2,016	公立 n 16,998	私立 n 4,902
1.部活動の時間・日数が長い	19.9	15.4	20.3	21.4
2.部活動の指導が厳しい	6.4	6.2	3.9	5.0
3.実技指導をしてほしい	7.0	5.0	6.4	6.5
4.部活動顧問の先生が意見を聞いてくれない	4.4	4.1	3.5	4.3
5.レギュラーになれない・してくれない	4.5	4.4	3.9	5.4
6.ケガで活動ができない・なかなか治らない	3.6	3.0	4.4	4.9
7.他の生徒との関係	10.8	7.3	6.6	6.9
8.眠くて授業に集中できない	12.3	9.4	12.8	12.3
9.学業との両立	16.3	21.6	28.4	26.1
10.体がだるい	16.0	11.2	13.6	13.1
11.家族に活躍を期待されている	4.0	2.8	1.6	2.2
12.家族の理解がない	2.0	2.9	1.3	1.1
13.部活動の悩み(その他)	8.8	6.7	7.6	9.1
14.学校生活の悩み(その他)	5.3	5.3	4.3	4.4
15.特段の課題や悩みはない	41.0	45.1	34.7	34.5

- (4) 運動部生徒の保護者が、部活動に関する悩み（複数回答）について、
- 「学業との両立」と答えた割合は3～4割程度
 - 「特段の課題や悩みはない」と答えた割合は3割弱
 - 「活動時間・日数が長い」、「家族団らん・旅行ができない」と答えた割合はいずれも1割程度

H29	中学校		高等学校	
	公立 n 24,982	私立 n 1,969	公立 n 15,832	私立 n 4,464
1.部活動の時間・日数が長い	13.3	14.7	15.6	15.1
2.部活動の時間・日数が短い	6.4	8.4	3.2	4.8
3.指導が行き過ぎている	2.5	1.7	2.0	2.6
4.ケガが心配	13.6	13.8	17.8	21.2
5.部活動顧問の先生が意見を聞いてくれない	4.4	3.4	3.3	4.3
6.レギュラーにしてもらえない	2.4	2.0	1.6	2.9
7.生徒同士の人間関係	15.1	8.8	8.3	9.0
8.校外への送迎が大変	20.1	5.1	11.1	6.3
9.お金がかかる	10.6	8.3	14.7	17.1
10.学業との両立	30.4	40.1	36.4	36.9
11.家族団らん・旅行ができない	15.6	15.7	11.7	13.1
12.その他	6.8	5.7	4.6	5.5
13.特段の課題や悩みはない	26.9	30.0	29.3	27.1

12. 公立学校運動部の主担当顧問教員と体育・スポーツ団体との関わりについて
 公立学校運動部の主担当顧問教員が、体育・スポーツ団体との関わり（複数回答）について、

- 「中体連・高体連・高野連の役員・スタッフをしている（2.～4.）」と答えた割合は4割程度
- 「競技団体の役員をしている」と答えた割合は1～2割程度

H29	中学校		高等学校	
	公立 n 4,138	私立 n 283	公立 n 4,370	私立 n 1,513
1.関わっていない	47.1	58.0	49.9	51.8
2.中体連の役員・スタッフをしている	42.7	22.6	1.3	6.1
3.高体連の役員・スタッフをしている	1.0	14.1	33.8	28.7
4.高野連の役員・スタッフをしている	0.2	0.0	4.0	2.4
5.体育協会の役員・スタッフをしている	2.5	1.1	2.6	2.9
6.競技団体の役員・スタッフをしている	13.7	12.7	19.7	16.7

- また、年間従事日数について、「1～7日」と答えた割合は、
 - ・「中体連・高体連・高野連」では2～3割程度
 - ・「競技団体」では約2割

H29	中学校(公立) n 4,138			高等学校(公立) n 4,370		
	部活動 関係団体	体育協会	種目別 団体	部活動 関係団体	体育協会	種目別 団体
1.関わっていない	37.4	78.2	61.4	41.5	78.5	58.9
2.7日以内	34.0	13.5	20.8	24.6	11.9	20.3
3.14日以内	16.1	1.9	7.0	17.4	2.7	8.4
4.21日以内	3.7	0.4	2.5	6.2	0.6	3.2
5.30日以内	2.2	0.3	1.6	3.4	0.4	1.7
6.31日以上	2.5	0.8	2.1	3.0	0.7	2.7

※部活動関係団体は、中体連、高体連及び高野連を指す。

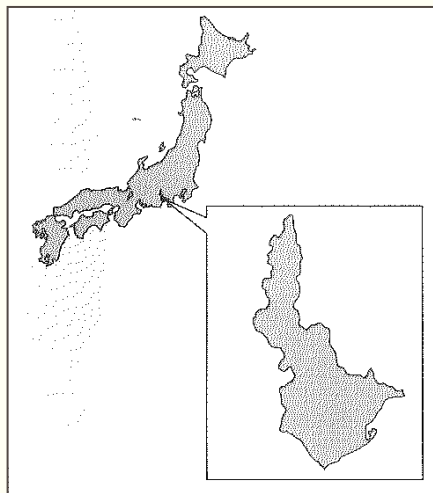


部活動の質を向上させる 静岡市の部活動改革

～ガイドライン、外部人材の活用等により、
生徒の競技力向上と教員の働き方改革を両立する～



静岡市の概要



平成17年4月1日に全国で14番目の
政令指定都市になる

総面積:1,411.90km²

人口:総数707,202人

葵区:255,661人 駿河区:211,386人 清水区:240,155人
(平成29年7月末現在)



市内全43中学校、生徒数15,733人(平成29年5月1日現在)

静岡市の教育2017より

全部活動数472、加入率82% (平成29年8月1日現在)

平成29年度静岡市立中学校部活動実態調査より



説明の概要

- 1 静岡市立中学校部活動ガイドラインの概要
- 2 部活動活動日・活動時間の設定～生徒の意欲を高め、人間形成に資する～
- 3 外部指導者の活用 ～指導者の資質を向上させる～
- 4 静岡市立中学校部活動ガイドライン策定スケジュール
- 5 今後の取り組み

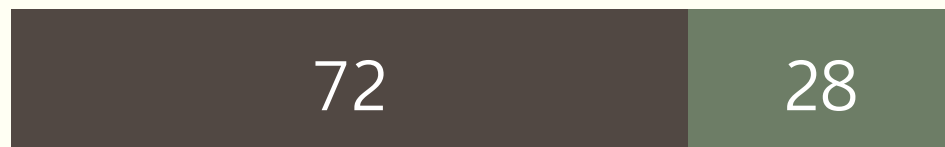


1 静岡市部活動ガイドラインの概要

静岡市のこれまでの現状

これまでは、[校長会の委員会](#)が定めた「[静岡市立中学校部活動申し合わせ事項](#)」により活動

平日活動日（％）



■ 週3日 ■ 週4日

43校中31校が平日3日、12校が平日4日の活動をしている。

土日活動日（％）



■ どちらか ■ 両日できる ■ 決めていない

43校中26校がどちらか1日の活動、10校が両日できる、7校が特に決めていないとしている。

平成29年8月「静岡市立中学校部活動実態調査」より

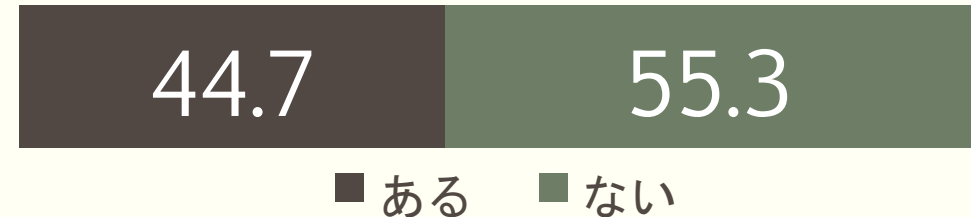
1 静岡市立中学校部活動ガイドラインの概要

静岡市のこれまでの現状

部活動顧問をしている教員の割合（％）



競技経験がある教員の割合（％）



指導に自信がある教員の割合（％）



土日に十分な休養をとれている教員の割合（％）



平成28年度静岡市総合教育会議「部活動指導実態アンケート（平成28年8月実施、抽出9校）」より



1 静岡市立中学校部活動ガイドラインの概要

○部活動の意義・目的

- ・ 人間形成
- ・ いきいき3視点

○部活動指導の5原則

- ・ 生徒が主人公
- ・ 体罰暴言禁止
- ・ 適切な活動量
- ・ 安全管理の徹底
- ・ 生徒も指導者も達成感

○部活動活動日・活動時間の設定

- ・ 活動日 週4日
- ・ 部活動なしの日
- ・ 活動時間

○外部指導者の活用

- ・ 外部顧問
- ・ 外部指導員

○所属

- ・ 自由参加
- ・ 特例(合同・エリア制)

○事故対応、組織運営、設置改廃等

2 活動日・活動時間の設定

～生徒の意欲を高め、人間形成に資する～



部活動活動日・活動時間の設定

○活動日 週4日

平日：原則として火曜日、水曜日、金曜日

週休日：土曜日又は日曜日どちらか一日

○部活動なしの日 年間6日程度

市一斉：5月第3土曜日、11月第2土曜日、12月第1日曜日（地域防災訓練の日）

各中学校ごと：年間3日程度

○活動時間

ひと月の常時活動の合計時間※¹を、1年間の平均が月45時間程度まで

※1) 平日（16:45以降）と週休日を合わせた、長期休業を除く活動時間

2 活動日・活動時間の設定

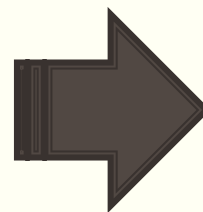
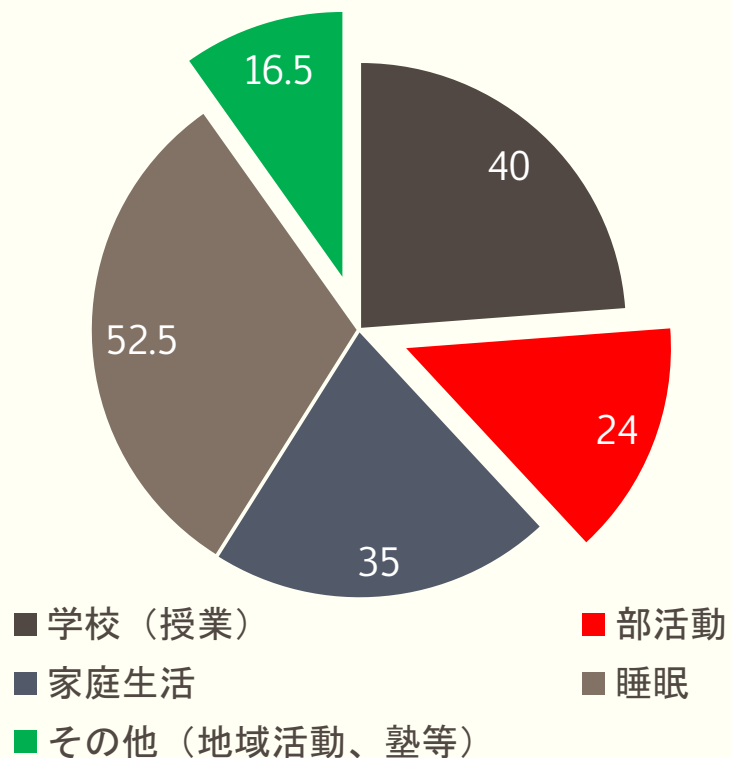
～生徒の意欲を高め、人間形成に資する～



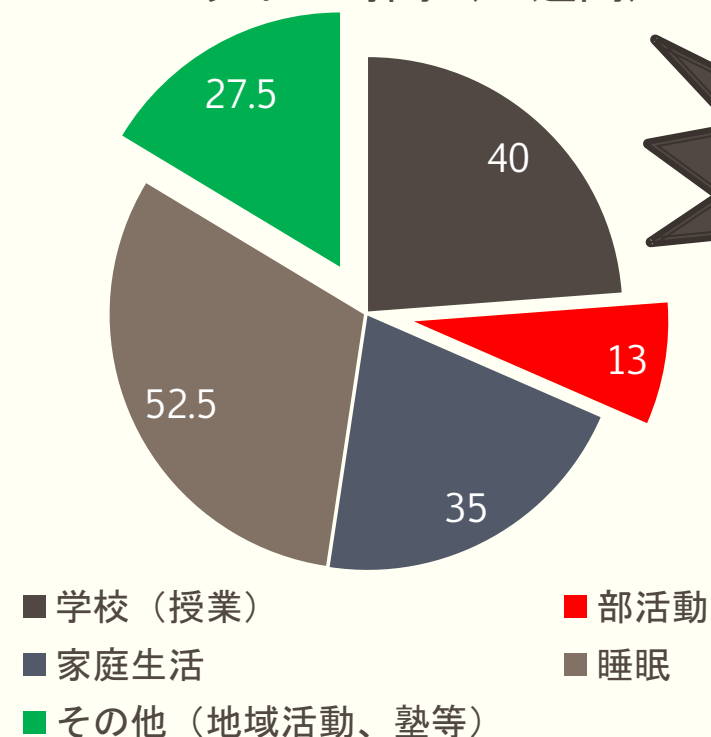
意義 1 : 生徒のSTUDY/SPORTS/SOCIETYのバランスを図る

- 現状 ・4月に週6日行った場合(土日両日8時間) ○ 静岡市ガイドライン ・4月週4日(土7時間)

ライフ時間 (1週間)



ライフ時間 (1週間)



部員増加
の例

2 活動日・活動時間の設定

～生徒の意欲を高め、人間形成に資する～



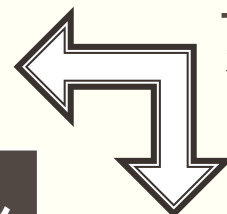
意義 2 : 生徒がより効率的練習を志向できる

○ 上限時間の提示による量的目安の設定

* 上限45時間は、H29年度の「実例」と「シミュレーションより算定」

月	M中実例	シミュレーション
4月	42.0 h	43 h
5月	43.6 h	49 h
6月	51.0 h	49 h

生徒が時間的な目標・活動を共有して練習する



○ ガイドラインを基準に各校が練習計画を作成し、活動日・活動時間を明示する

- ・ 学校の全体計画
- ・ 部活動部長(生徒)会
- ・ 部活動顧問者会
- ・ 部活動保護者会

2 活動日・活動時間の設定

～生徒の意欲を高め、人間形成に資する～



意義3：競技団体や民間等の他組織との連携により 生徒は、さらなる競技力を望むこともできる

○ より親しみたい場合…

- ・ 静岡市体育協会、地域との連携

種目	体育協会主催
陸上競技	ランニング教室
バスケットボール	バスケット教室等
バレーボール	バレー教室等
卓球	卓球教室
ソフトテニス	ソフトテニス教室
柔道	柔道教室
剣道	剣道教室
バトミントン	バトミントン教室

○ より向上したい場合…

- ・ 民間や競技団体との連携 *部活の休日や活動時間が明確になる

種目	民間、道場、競技団体	協会、連盟等による選手強化
陸上競技	陸上教室等	選抜チーム設置
バスケットボール	民間クラブ等	トレセン、選抜チーム設置
バレーボール	民間クラブ等	トレセン、選抜チーム設置
卓球	民間クラブ等	強化練習会開催
ソフトテニス	民間クラブ等	選抜チーム設置
柔道	民間の道場	トレセン設置
剣道	民間の道場	強化練習会開催
水泳	民間のスイミングクラブ	強化練習会開催
バトミントン	民間クラブ等	強化練習会開催
吹奏楽	個人レッスン	
サッカー		トレセン設置
野球		技術講習会、硬式野球教室設置

2 活動日・活動時間の設定 ～生徒の意欲を高め、人間形成に資する～



意義4：生徒の主体的な参加をより一層促す

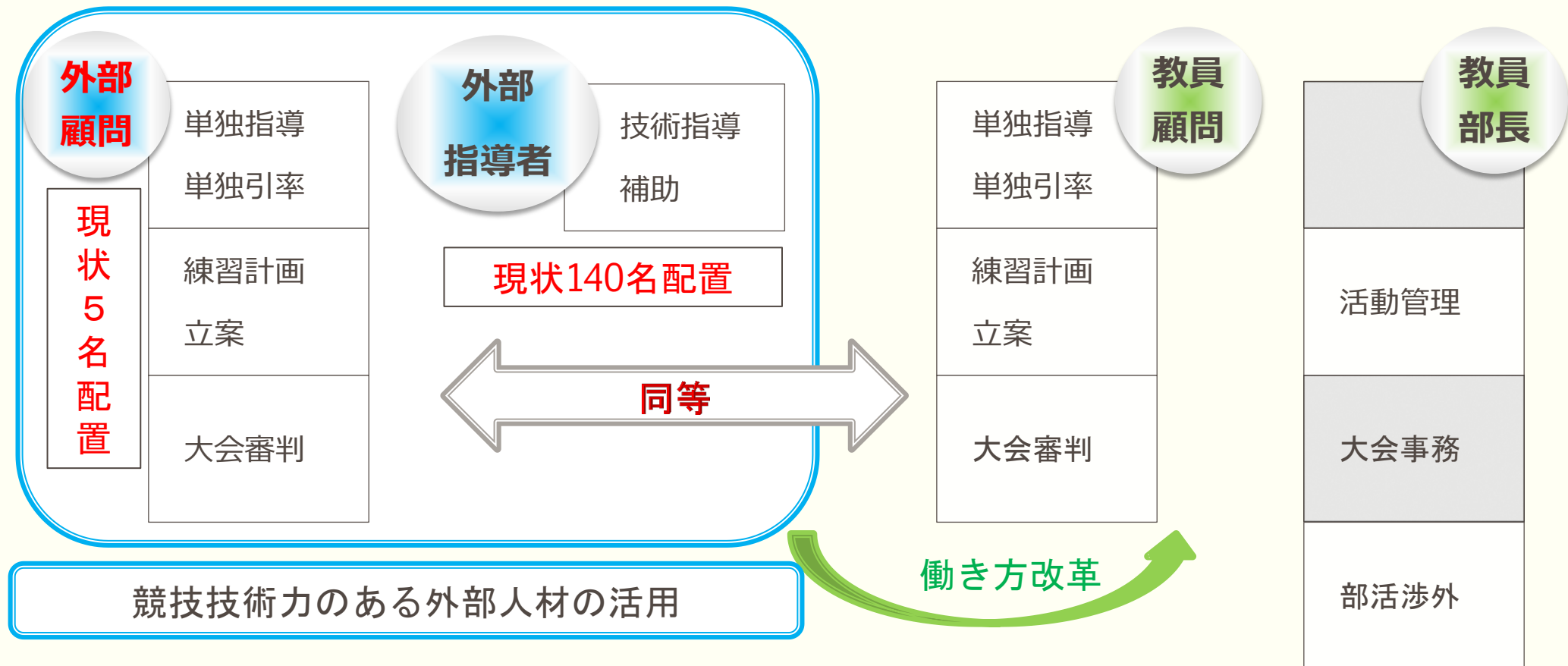


- 部活動の所属は、自由参加を原則とする
特例として、合同チーム、エリア制部活による参加→生徒のやる気を尊重する
 - ・合同チーム…小規模校、少人数でも継続活動
 - ・エリア制…施設集合型：指導者施設が揃う部活の充実
日常分散型(休日に集合)：文化部の充実



3 外部指導者の活用 ～指導者の資質を向上させる～

部活動指導員の体制を整備





3 外部指導者の活用 ～指導者の資質を向上させる～

教育委員会が「ライセンス」を付与した者を外部顧問として任用

○講義・演習等による研修【7時間】

内容	時間・形式 講師（例）	確認方法
教育における部活動の役割	60分・講義 学校教育課指導主事	テスト
学校における事故発生時の救急体制	60分・講義 学校教育課指導主事	テスト
部活動及び学校現場における安全確保	60分・講義、演習 救急救命士	テスト
部活動における生徒指導の在り方	60分・講義、演習 学校教育課指導主事	テスト
社会に開かれた部活動の在り方	60分・講義、演習 静岡市中体連会長	レポート
日々の指導に活かすコーチングスキル	60分・講義、演習 清水エスパルス	テスト
部活動指導に活かすトレーニング理論と方法	60分・講義、演習 有識者	レポート

○実地研修【1ヶ月程度】

内容	確認方法
各競技団体による実技講習	実地観察
実習視察	実地観察
静岡市部活動外部顧問への期待	
総括的評価	面接



人材の発掘（企業等、大学・専門学校等、競技団体、小学校等）



3 外部指導者の活用 ～指導者の資質を向上させる～

教育委員会が教員顧問を対象に年4回の研修を新規開催

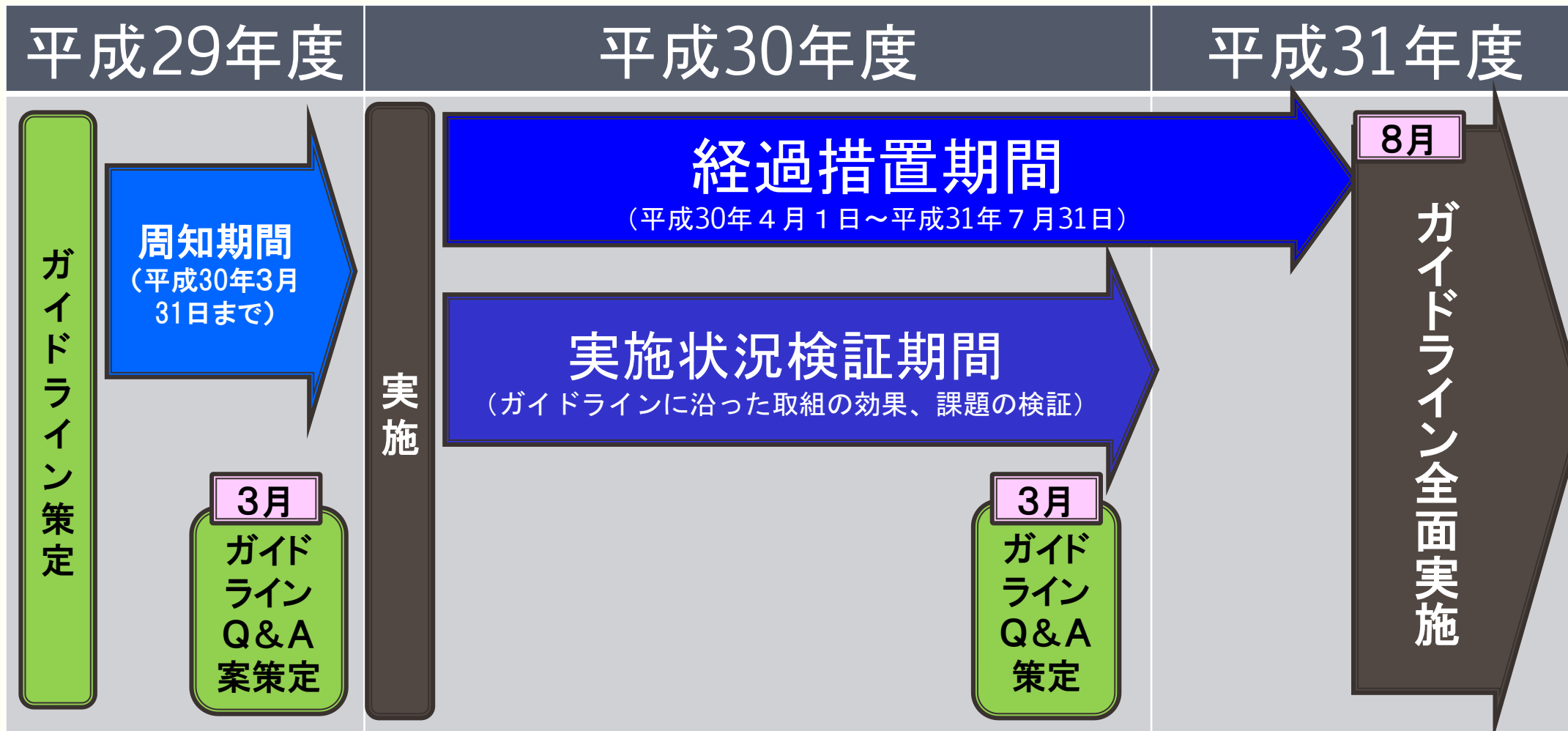
○競技力・コーチングに関する内容の充実

	内容	講師例
野球	競技理論と指導者育成	六大学監督
陸上	目標設定とコーチング	駅伝監督
サッカー	効果的な練習方法	Jリーグ関係
ラグビー	競技力と人間形成	高等学校監督

○科学的・効率的指導に実績ある講師を招聘



4 静岡市中学校部活動ガイドライン策定スケジュール





5 今後の取り組み

市民、保護者、学校への
周知・理解促進

各種団体との連
携、働きかけ

・大会規定(外部顧問引率等) 及び大
会数、大会規模の見直し

企業及び有識者等による
部活動を支援する仕組み
の検討



運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン検討委員会

多治見市教育委員会

多治見市の部活動とジュニアクラブ活動

学校部活動（学校管理下） 学校施設での活動

- 活動時間
平日の下校時間まで
- 指導者
学校の教職員
- 大会
中学校体育連盟の大会
- 保険
スポーツ振興センター

ジュニアクラブ（保護者設置） 学校施設での活動

- 活動時間
平日の下校時間以降
（17～19時）、休日、祭日
- 指導者
社会人指導者（教職員）
- 大会
協会主催大会
- 保険
スポーツ傷害保険

クラブ化の背景

- 少子化による廃部
- 学校規模による部活動数の違い（選択肢）
- 生徒のニーズの多様化（一般クラブ、習い事、趣味など）
- 競技力向上志向が強くなってきた
- 保護者の専門的指導を願う声
- 中体連後の活動の場の保障
- 部活動の時間の減少
- 教職員の負担増

○クラブ化推進委員会の設置・検討（H12）

ジュニアクラブの加入率と教職員の指導者率

- ジュニアクラブ加入率 50%
(一般クラブ10% 未加入 40%)
- 教職員のジュニアクラブ指導者としての関わり 30%

クラブ化によるメリット

- 学校の枠を超えた活動の場の確保ができる
- 生徒のニーズに応えられる
- 保護者のニーズに応えられる
- 教員のニーズに応えられる（負担軽減、専門性のある教員のクラブでの指導）
- 多くの大人目で生徒と関わる事ができる
- 保護者のコミュニティーが形成される

クラブ化によるデメリット

- 保護者の負担増（当番・会費等）
- 指導者の確保
- 部活動顧問と社会人指導者の理念の違い（一部勝利至上主義）
- 初心者の加入が難しい

これからの方向

- 学校（教職員）、保護者、社会人指導者の連携（目指す子ども像、目指すスポーツ像の共通理解）
- 運営母体を明らかにしたジュニアクラブ運営（保護者会を中心とした運営母体、地域の活力を活かす）
- 各ジュニアクラブの規約の見直し
- 種目協会を巻き込んだ総合的な環境整備の充実（多種目・多世代・多技術）
- 質の高い指導者の確保

中学生の部活動・ジュニアクラブ活動

多治見市

経緯・概要

少子化の影響により部活動で廃部が相次いだことや、学校週5日制の完全実施などを受けて、平成14年度より、中学生期のスポーツ活動や文化活動を、学校管理下における部活動と保護者設置によるジュニアクラブの2つの体制により実施。



中学校の部活動 (学校の教育活動)

ジュニアクラブ活動 (地域の社会人や保護者が設置)

- ・活動時間
平日の下校時刻まで
(長期休業中あり)
- ・指導者
学校の教職員
又は 社会人指導者
(部活動顧問と連携。中体連主催の競技会など指導可能)

密接な連携

- ・活動時間
平日の下校時刻以後
休日
 - ・指導者
社会人指導者
(含教職員)
- ※部活動の充実が目的。
生徒の参加は任意。

「ジュニア期のスポーツ活動」ガイドライン(概要)

【全般】

○活動時間・・・生徒の体と心の健康に配慮し、無理のない範囲で設定

- ・1日の活動時間は、平日は2時間、休日は4時間を超えない範囲で設定する。
- ・練習日数は週5日以内とし、休日のうち、月に2回は休息日を設定する。 など

○指導者

- ・指導者の要件・・・①発育発達に応じた適切な指導を行う、②技術的な指導のみならず人格形成に寄与する指導を大切にする、③子どもや保護者および学校とのコミュニケーションを積極的にとり、良好な関係を築く、④体罰や言葉の暴力など行き過ぎた指導を行わない
- ・指導者の育成・・・指導講習会や研修会への参加 など

○安全への配慮

【ジュニアクラブ】

○ジュニアクラブ代表者の責務 ○学校の責務

○行政の責務



※詳しくは、<http://www.city.tajimi.lg.jp/kosodate/sports/jyuniaki.html>

ご静聴ありがとうございました

多治見市教育委員会

総合型クラブと部活動の連携

「新しいカタチの部活動」の取組



NPO法人希楽々
渡邊 優子

新潟県最北の市…村上市



- : 面積県内最大
- : 人口 61,750人
- : 岩船産コシヒカリ・村上牛
- : 瀬波温泉
- : 3つの“さけ”
「鮭・酒・情け」

希望を持って楽しく生きよう…希楽々



希楽々

- ：平成15年設立
- ：職員12名（パート18名）
- ：日常生活密着型
- ：地域課題解決プログラム
- ：子どもの多体験
- ：高齢者の社会参加
- ：体育施設と学童保育所管理

地域課題解決との接点

- ：人口減少、少子高齢化
- ：子どもの体力低下
- ：コミュニティの希薄化
- ：介護予防、生活支援
- ：子育て環境の充実



◎地域課題にスポーツ等の特技を付加しながら
市民が幸福な生活を送ることができる環境づくり

部活動の環境

- ：部活動の位置付けが不安定
- ：生徒数減少に伴う設置できる部活動の減少
- ：既存部活動の存続危機そして廃部
- ：希望の種目が選択できない
- ：スポーツを選択する生徒数の減少
- ：合同チームによる中体連大会への参加制限
- ：勝利主義
- ：専門の先生の有無で振り回される生徒たち

希望の種目ができない現状

	村上第一中学校	村上東中学校	岩船中学校	荒川中学校	平林中学校	神納中学校	朝日中学校	山北中学校
陸上	○			○			○	
野球	○	○	○	○	○	○	○	○
サッカー	○	○		○			○	
バスケ(男)	○	○	○	○	○	○	○	○
バスケ(女)	○	○			○ J.G.B.C		○	○
バレー(男)	○							
バレー(女)	○	○	○	○	○	○	○	○
卓球	○	○		○	○	○	○	
バドミントン	○			○			○	
ソフトテニス(男)	○	○		○				
ソフトテニス(女)	○	○	○	○			○	
柔道	○	○						○
剣道	○			○				○

H24.新しいカタチの部活動誕生経緯

：既存部活動にはない

バスケットボールをしたい女の子たち

：保護者は部活動の新設を懇願

：学校側は新設不可

：学校、保護者、希楽々で話し合い

3者で合意形成

：次年度より部活動に準ずる活動として

「新しいカタチの部活動」として活動開始



H25.新しいカタチの部活動スタート



- ：部活動にない種目
- 女子バスケットボール「J・G・B・C」
- ：クラブ管理下
- ：放課後バスで迎え
- ：中学校2校12名
- ：週2日
- ：クラブ登録指導者
- ：参加費1回400円
- ：中体連大会参加

H26.27 新しいカタチの部活動の充実



- ：中学校3校17名
- ：週4回(火・水・金・土曜日)
- ：指導者はクラブ職員及び外部指導者
- ：参加費1ヶ月3,000円
- ：バスケットボール活動以外に
クラブイベント等のボランティア参加

多様な効果

- ：希望種目の実施
- ：他中学校間の交流
- ：中体連大会には各学校名で参加



クラブ管理下ならではの効果



- :クラブ事業へのボランティア参加
- :多世代交流による社会性やマナーの向上
- :クラブ集会で活動紹介
- :夏休み自主学习

課題

- ：校内活動と校外活動の壁
- ：新しい種目に取り組むことによる既存部活への危機感
- ：広く周知できない
- ：クラブチームとしての中体連大会への参加不可
- ：村上市として「部活動の在り方」が不明確
- ：「先生ください」という不安定さ
- ：受益者負担
- ：部活動ではないから選択しない子どもたち

H28.協働展開



：新潟県広域スポーツセンター協働展開事業受託

：構想→エリア拡大と種目の多様化

：サッカー「J・F・C」開始…中学校3校26名 週3回

クラブ職員及び外部指導者



ある日のバスの中



- :女子バスケット×サッカー
- :男女
- :地区を超えて
- :3つの中学校
- :バスの中は交流空間

H29.小休止

- ：女子バスケットボール → 選択希望者1人で休部
選ばない理由 「部活じゃないから」
- ：サッカー → 勝利主義のクラブチームとの絡みで休部
- ：柔道・ソフトテニス・・・実施体制は完備
部活ではない種目を選択する意欲微弱で選択者ゼロ
- ：平成30年度再開に向けて準備中

これから・・・

：村上市「第2次教育基本計画策定委員会」への関わり

→部活動検討委員会設置を明文化

：新潟県「運動部活動の在り方検討委員会」への関わり

→新しいカタチの部活動を提案

➡ 教員の多忙化視点のみならず

生徒の欲求やニーズも考慮し、教育の一環としての

「これからの部活動の新しいカタチ」を模索していき

たい

希冀々

大切なのは・・・

- ：物質的な補完ではなく
地域全体で取り組むしくみづくり
- ：校内活動と校外活動の壁を超えた
連携体制づくり

こんな中学生空間もある



中学生バレーボール空間

: 中学校8校20名 男女 異学年 市内外

: 男子バレーボール、既存部活動への不満



ご清聴 ありがとうございます

希集々^{☆☆☆}